

The Correspondence of
Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
ニュースレター



Contents

Vol.3
Dec. 2002

ふおれすと鉱山のもとめるもの③	2
市民と鉱山の森をつくる	2
オープンから8ヶ月の活動報告	5
鉱山町の自然	7
リトル・ヴォイス リレーエッセイ	8
ふおれすと鉱山からのお知らせ	10

ふぉれすと鉱山のもとめるもの③

市民と鉱山の森をつくる



「鉱山の森を、もっと楽しみたいッ！」
市民と考える 鉱山の森づくりの胎動

「ふぉれすと鉱山」がオープンして9ヶ月。

今、冬を迎える前に、もうすでに来年度へ向けての計画が練られています。

その中でもっとも注目を集めているのが「鉱山町の森づくり」。

今年様々な話題を巻き起こしたふぉれすと鉱山が、森の活用について考えます。

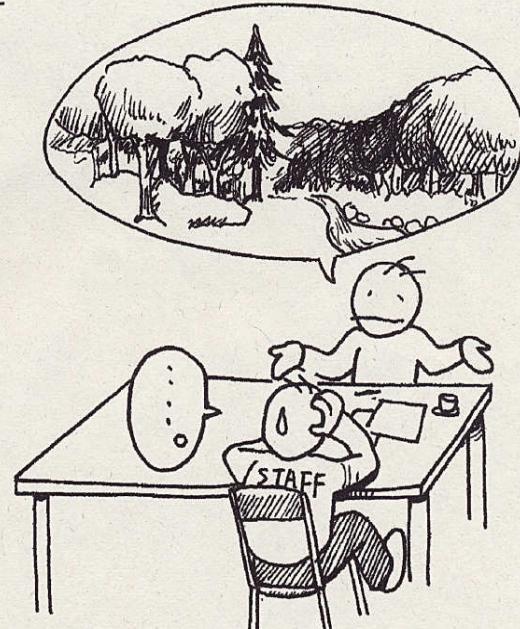
さて、今度はいったいどんなことを始めようとしているのでしょうか…？

アウトドアで遊べないふぉれすと鉱山

「うえださん、ふぉれすと鉱山て、なんかこう、近くに遊べる森がないよね。」時間の都合上、あまり遠くに行かないで自然体験をさせたいという学校の先生との打ち合わせの中で言われた言葉です。「…はあ、ホントにその通りですね…。」

そうなのです。鉱山町を訪れる人たちはふぉれすと鉱山というインドアで遊ぶために来るのではなく、鉱山町というアウトドアのフィールドで遊びたいから来るわけです。しかし、このフィールドや自然環境を「教育の場」「レクリエーションの場」として十分に活かしきれていないのが、現状です。

そこで、そろそろホンモノの「人と自然のふれあい拠点づくり」のために、施設内の使い勝手ばかりに手をかけるのではなく、肝心の屋外の使い勝手について、より具体的にいかねばならないと考えています。



ふぉれすと鉱山流森づくりの作戦

この鉱山町というフィールド、マウンテンバイクや車を使えば色々と面白い場所に行けるのですが、気軽に歩いて行ける範囲で…となるとなかなか自由に心地よく遊べる森がありません。そして、確かに鉱山時代に比べて森林は再生していますが、まだ「森」と呼ぶほど大きな木や多様な植生が見られるわけでもなく、ほったらかしにされていたところにはクマイザサが覆いかぶさり、なかなか植物の種や人が遊びに入り込めるだけの隙間がありません。

そう言われると「よし。じゃあみんなでササ刈って何か苗木を植えよう。」ということになりますが、そう簡単にことを進めるわけにはいかず、市民の方々と一緒に「自然とは」「活用とは」「整備とは」などといった言葉に対するコンセンサスをとったり、森林や鉱山町についての正しい知識や技術を身につけたりと、色々と作戦を立てる必要があります。

ふあれすと鉱山の森づくりの目的

手始めに私たちは、ふあれすと鉱山らしい森づくりを進めるために目的と、目的達成のための大まかな内容を掲げてみました。

目的

この森づくりは、ふあれすと鉱山周辺のフィールドを、生態系に充分な配慮をしつつも、より学習やレクリエーションの場として活用しやすくするために、市民の方々と協働してそのあり方を考え、創り上げて行くことを目的とします。

目的達成のために

- ①この森づくりに対する市民のみなさんの気運を高めます。
- ②鉱山町周辺の森林に対する正しい知識や技術を習得するための講座を開きます。
- ③「鉱山の森」の活用・整備のための具体的な方法を考え、実施するためのアイデアやイメージをみなさんと共有します。
- ④「鉱山の森」の活用・整備のための計画・準備を進めます。

私たちはあくまでもふあれすと鉱山の大切なコンセプトである、多くの市民の力と、専門NPO（ねおす）の持つノウハウ、そしてふあれすと鉱山の運営をする行政の力を活かした「コラボレーション」によって森づくりが進められるようにしていきたいと考えています。

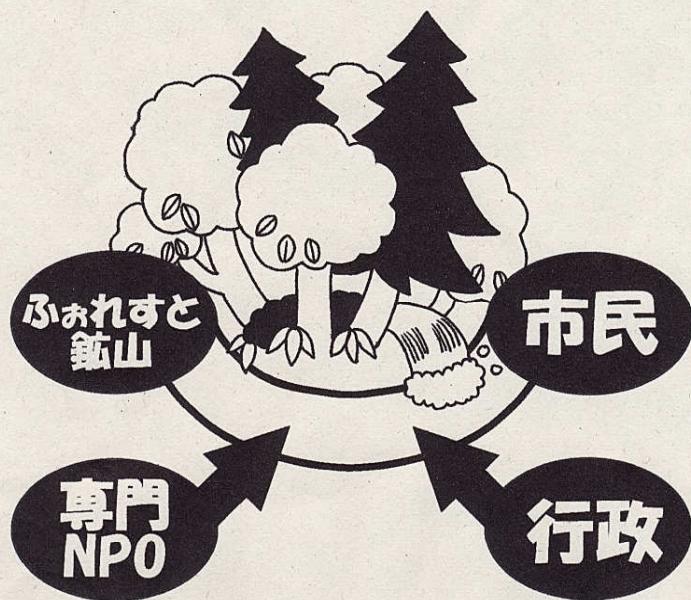


図. 森づくりのコラボレーション

市民の皆さんのが使いたい森、教育のためにつくりたい森。その願いを形にし、実際の森をつくる道筋をつけるために専門NPOと行政が後押しをする、ここにもふあれすと鉱山の「みんなでつくり上げて行きたい」という、コラボレーションのスピリットが息づいています。

ふれすと鉱山のお勉強会

では、鉱山の森をどんなふうにしたらよいのだろう。それを知るために勉強しなければならないことがあります。私たちは、市民のみなさんとともに鉱山町周辺の森に対する正しい知識と、最新の森づくり事情について学ぼうと、2回に分けて講座を開催しました。

①三木 昇さんの、鉱山の森の姿



一回目の講座は三木 昇さん（北ノ森自然伝習所）をお招きしてフィールドワークをしながら鉱山町の周辺の様子について学習しました。今、私たちの目に写っている木々は、どのような経緯を経てここにいるのか、鉱山町の森がどのように構成されているのかについて、実際に歩き、手で触れながら理解を深めました。

鉱山時代の汚染された土地に根付くコケや、汚染された土地に強い植物のことなど、次第に自然の姿を目指してゆっくりと動いている森の姿を感じることができたほか、鉱山町の森は植林地が多くを占めるということや河畔林のこと、クマイザサの管理のことなど、多くの森づくりのためのヒントを学びました。

②山本 信次さんの、人が関わる森づくり（里山の話を中心に）

二回目は岩手大学の山本 信次さんをお迎えして、本州の「里山」の概念を紹介していただきながら、北海道らしい森づくりのヒントを講義していただきました

はからずも、2回の講義において異口同音にして発せられた「50年先を見越した森づくりも大切だが、その50年も楽しめる森づくりでなくてはならない。」という言葉は、鉱山町の森づくりにとつて大きなキーワードとなったような気がします。



ふれすと鉱山とこれからの鉱山の森

2回の講座を通して、おぼろげながら見えてきたことがあります。原生の森が決して多くないここ鉱山町においては、かえって「市民が森からの恵みを適度に頂くために、みんなで適切な利用方法を考え、大切にしていく森」という、道内では珍しい、かといって本州の里山ともちょっとちがう新しいスタイルの森づくりができるのではないか、ということです。かつて人が手を入れ、荒らしてしまった森を「適切に手を加えることを通して教育効果を生み出すといった、有効活用してもよい場所」と前向きに捉えて活用・整備していくことこそ、「人と自然のふれあい拠点」としてふさわしい森となるのではないでしょうか。

今後は、この2回の講座を礎（いしづえ）として、いよいよ具体的な活用方法を考えていくことになります。結果として「鉱山の森」を良い再生へと導くことができればいいのですが、そこに至るまでの過程も大切にし、この森づくりがきっかけとなって、市民の方々の新たな動きを生み出すことができればと思います。

目の前にある手入れの行き届いた森からいただいたキノコなんかを食べながら、50年後の森の様子を想像する…なんていうプログラムを、子どもたちに提供できればいいなあ。

上田 (Program Director)

オープンから8ヶ月の活動報告①

ふれすと鉱山240日

早くも12月の到来です。
来年の準備、冬支度、色々と忙しくなった今日この頃です。

9月

だんだんと秋の気配。でもみんなまだまだ川で遊びまくります。学校では2学期が始まって、宿泊学習も最後のピークです。
ふれすと鉱山の主催事業はありませんでした。



9月に保護されたアカショウビン。
翼が折れていって、残念ながら死んでしまいました。

10月

秋の気配を感じながら、色々な活動ができる時期です。今年の紅葉はいまいちかな?それでも色づいた葉っぱを使って様々な遊びができました。



13日…鉱石の楽しみ方講習会（主催）

地質のに詳しい藤田先生をお招きし、石や鉱石の様々な楽しみ方を学びました。

19日…サケウォッキング（主催）

子どもたちを集めて、川を上るサケや幌別川の魚を観察しました。
サケを見た後はチャンチャン焼きでおいしくサケをいただいてしまいました。

20日…紅葉の鉱山（主催）

マウンテンバイクで林道を走り、真っ盛りの紅葉を楽しみました。途中、サルナシを味見したりして。

11月

終盤になった紅葉はまるで燃えるように色づきました。雪が降るまでゆっくり楽しめたモミジたちに、今年は感謝です。



1~3日…ネイチャークラフト講習会（主催）

クラフト作家の長野さんをお迎えして、
ネイティブアメリカンのお守りを作ったり、カードスタンドを作ったり。
自然に対する新しい価値観を得た講習会でした。

23日…鉱石を探そう（主催）

光る鉱石を探したり、砂金を探してみたりしました。川の中は寒かったけど、モモンガくらぶの皆さんがあつてくれた石狩鍋がおいしかった。

30日…モモンガに会いに夕暮れの森の中へ。初めて見るモモンガの姿に感想は様々。その後見に行ったネズミの観察は見事に空振りでした。

9月		
4~5	竹浦小5年生宿泊学習	MTBで鉱山の森を探検!夜は真っ暗な中でかくれんぼを楽しみました。
5~6	幌別小5年生宿泊学習	幌別川でめいっぱい遊びそして、幌別川について学びました。
8	登別子ども会	森から小枝などを拾ってきて、ネイチャークラフトを行ないました。
10	幌別東小遠足	クライミングウォール、きのこ探し、木の名札を作りなどで遊びました。
14~10/25	北海道自然体験学校NEOS	実習生2名の受け入れを行ないました。
14	北武館	森から拾ってきたものを使って、くっつきクラフトを楽しみました。
15~16	うぐいす子ども会	MTBに乗ったり、きらきら光る石を探しに行なってしました。
18	幌別東小2年生	森に入って、ネイチャークラフト使う材料を集めました。
19	白鳥台小4年生総合学習	川で宝物を探し、その宝物を使ってネイチャークラフトを行ないました。
20	幌別東小2年生	鉱山の森から拾ってきたものでネイチャークラフトを行ないました。
21~22	林間学校	森の材料を使ってクラフトを行ないました。
25	登別小6年生理科	大地のでき方や鉱石のでき方を学びました。
27	札幌のぼりべつ交流会	鉱山の面影を探しながらガイドウォークを行ないました。
28	幌別東小6年生学年レク	実際に川に入って、魚ウォッティングを行なってきました。
29	親子ふれあいエコツア	丸山博子さんをお迎えして、森のリサイクルについて楽しく学びました。

10月		
1	青葉小3年生総合学習	いろんな色の葉っぱを集めてきてグラデーションを作りました。
3~5	市民見学会	登別市民の方々が来館し、ふおれすと鉱山の案内を行ないました。
4	鉄南第7町内会婦人部	森から集めた材料を使ってネイチャークラフトをおこないました。
5	モモンガくらぶ記念行事	モモンガくらぶ主催でクライミングウォールやガイドウォークを楽しみました。
8	NEOSツアー	ガイドウォークや川又温泉を散策したり森で紅葉狩りを楽しみました。
9	食改善推進協議会	クラフトをしたり、周辺を散策したり、河原まで散策したりしました。
11	幌東小家庭教育会	鉱山町の周辺を散策しました。
12	常盤町内会	森から集めた材料を使ってネイチャークラフトを行ないました。
13	主催事業「鉱石の見つけ方」	藤田郁男さんをお迎えして、鉱石の見つけ方を楽しめました。
14	富岸サッカー少年団	森から拾っていきた材料でネイチャークラフトを楽しみました。
19	主催事業「幌別川と魚たち」	幌別川の魚やサケを観察し、お腹にはチャンチャン焼きを食べました。
20	主催事業「紅葉の鉱山」	MTBで森を探検し、コクワやヤマブドウなどの秋の味覚も楽しみました。
23	登別小1・2年生	クライミングウォールや木の葉のステンドグラスを作って遊びました。
24	鶴別小1年生生活科	秋の森の中でいろんな色を探しました。
25	青葉小4年生総合学習	紅葉の話を聞いたり種を集めたり、食べられるきのことりをしました。
26	幌別西小3年生学年レク	森の落し物を見つけ出し、世界にたった一つのクラフトを作りました。
29	登別小5年生	森からきれいな葉っぱを集め、アースアートを楽しみました。

11月		
2~3	主催事業「ネイチャークラフト講習会」	長野修平さんをお迎えして、奥深いネイチャークラフトを楽しみました。
9	登別山岳会	登別山岳会主催のクライミングウォール体験が行なわれました。
23	主催事業「鉱石をさがそう」	川で水晶探しや砂金探しを行ない、鉱石のでき方を楽しく学びました。
30	主催事業「夜の動物たち」	動物の生態を学び、夜の森ヘモモンガに会いに行きました。

9月 10月 11月の すべての 活動状況

指導者ステップアップ講習会

— 伝える技、教えます。 —

指導者ステップアップ講習会というのは、登別市およびその周辺で教育に携わっている方、自然や教育に興味のある方を対象に行なっている、ふおれすと鉱山の主催事業のひとつです。参加者がスキルアップを得て、そのスキルで物を伝えていくってほしいという思いが込められています。つまり、単なる知識の講習会ではなく、指導者としての物の見方を養ったり、伝え方を身につけたりする、指導者のための講習会なのです。

10月13日には、講師に北海道環境カウンセラー協会の藤田郁男さんをお迎えして、「鉱石の楽しみ方講習会」を行ないました。坑道跡での鉱石探しのあとに河原での砂金すくい(?)。鉱石のでき方、鉱石の見つけ方、はては地球のしくみまでを学び、藤田さんの幅広い見識をも学ぶ講習会となりました。

11月2,3日には、ネイチャークラフト作家の長野修平さんをお迎えして、「ネイチャークラフト講習会」を行ないました。ネイティブアメリカンの暮らしぶりに思いを馳せ、そのお守りづくりに挑戦したり、自然のなかから美を見つけ出しそれを写真におさめ、その写真を飾るフォトスタンドづくりに挑戦したりと奥深いネイチャークラフトの世界へと浸った、長野さんのメッセージがネイチャークラフトを通してじんわりと伝わってくる講習会となりました。

このステップアップ講習は、やがて地域（コミュニティ）で子どもを育てるという教育システムづくりへつながるよう願いがこめられています。これからも、「子どものためのインタープリテーション」、「手作り展示をつくろう」、「子どもミュージアムをつくろう」など、様々な講習を予定しています。参加者が地域や自然を見直し、それをしっかりと伝えてく。そしてその場としてふおれすと鉱山を活用してもらえばと考えています。

遠藤

森よ蘇れ！そんな願いが形になりつつあります。

鉱山最盛期に山から木が消えてから、100年が経とうとしている今、森は次の姿を目指して再生をはじめています。ご存知のように、鉱山町の森林は、その多くの木が植林

鉱山町を歩く

再生する自然③



によって人の手で植えられています。しかし、その手入れは行き届かず、山の森は荒廃しました。ササがはびこり、ツルが木々を絞め殺し、私たちはその森に容易に立ち入ることができなくなっています。私たち人間が作った森は人間が管理しよう。そしてより人間に利用しやすい森にしよう。そうすることでこの鉱山の森は蘇る。

壊れてしまった森がまた豊かな森に還るまで、あまりにも多くの時間がかかります。その自然のリズムを待っていることができるほど残念ながら私たちは寛容ではありません。でも、森が森に戻るための手助けをできるのではないかでしょうか。そして上手に活用できる森が作れたなら、それは立派に再生した鉱山の森と言えるのではないでしょうか。最近そんなことを考えています。

(檜山 art director)

もっと近づいて見てよ！ 森の「地味」ワールドへようこそ

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ③

みなさん、地衣類（ちいるい）というものをご存知ですか？おそらく、誰しも一度は目にしたことのあるのではないでしょうか。木から垂れ下がっている緑色のヒゲみたいなものや亜高山帯で岩にひついている模様みたいなもの、トドマツなどの樹皮にくついている模様みたいなものなどです。コケとよく間違えられますが、まったく違うものです。

地衣類とは、菌類と藻類の複合生物、つまり、菌くんと藻ちゃんがお互いに助け合って一緒に生活している生物のこと。菌くんは藻ちゃんに住みやすい生活空間と生活のために必要な水分を与え、藻ちゃんは菌くんに光合成で作った栄養を与えます。地衣類は、原則として1種の共生菌（菌くん）と1種の共生藻（藻ちゃん）からつくられ、その組み合わせにより種類が決まっています。

鉱山町では、木が一本もないような裸地に生育する地衣類が見られます。鉱山が盛んだった頃、精錬所があった土壤は酸性化し、なかなか植物が入ってこられないものへと変貌てしまいました。そんな裸地に、地衣類が息づいています。ひっそりと、力強く。そして、その地衣類のなかに、シラカンバやミヤマハンノキなどの子どもたちが育っている様子も見られます。地衣類は、森のはじまりの一歩を担っているのです。



精錬所跡地のハナゴケ

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

鉱山町の森で遊ぶ

三木 昇

ふおれすと鉱山の周りの森について、この冬考る機会がありました。鉱山町の森がどんな森だったらいいのか。ワタクシの思うところを書くのであります。

〈歩ける森〉

まず、森を見たい。どんな森がここにあるのかを探りたい。だから森の中に道がほしい。昔の詩にあった。「山のあなたに幸いすむと人の言う」。ふおれすと鉱山から見えるあの山の向こうまで行ってみたい。そして、そこに何があって、どんな物語があるのかを知りたい。みんなで一年間に百メートルずつでもいい。どこにどうコースをとるのがいいのかを考えながら。鉱山が栄えた頃には壯瞥まで索道（ケーブル）があったという。きっとササの中にその土台が埋もれているだろう。これも見つけたい。

〈愛でる森〉

森に何があるのかを探るのも遊びといえば遊びだ。これだけではない。他の遊びもある。例えば、春の桜の花見だ。ふおれすと鉱山の周りには桜の木がいっぱいあってたくさん的人が来る。うれしいことだ。ふおれすと鉱山の近くにある山神社には桜の木がたくさんある。ご存知だっただろうか。今はトドマツに隠れてしまったが、桜並木が山神社まで続いていた。鉱山の栄えていた頃はたくさんの人が、この桜の木の下で春の来るのを喜んだだろう。

〈食べる森〉

食べる森の代表はきのこだ。きのこを植えよう。木には悪いが何本か切らせてもらってヒラタケ、ナメコ、ムキタケ、シイタケを作ろう。そして鍋を囲んで森の木々と暮らしているキノコたちのことを語ろう。

〈町の歴史を残す森〉

鉱山町とはどんな町だったのか知っているだろか。明治の昔から山の岩壁に穴をほって鉱石を採掘していたところだ。その昔は公害だの煙害だのいろいろ言わなかった。そんな鉱山の時代もあった。山の木も煙害で枯れたこともあるだろう。いろいろな歴史があった。その名残が今も河原や川沿いの平らなところに残っている。これは、鉱山を語る上で大切なのだ。これには手をつけたくない。今にその場所には縁が増えていく。自然がもとにもどる様子を見ていきたい森だ。



自然を愛で、万象の
侘び寂び（わびさび）
までを伝える自然講釈
師。現世の森の姿から
いにしえの森に思いを
馳せ、植物相はもとよ
り、森に生きる生命の
つながりを親しみやす
い関西弁で伝承する。
植生調査のスペシャリ
スト。北ノ森自然（じ
ねん）伝習所を主催。

〈森でつくる〉

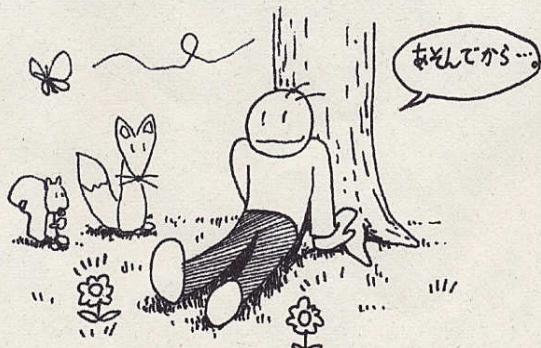
木を切るのはもったいない。切るのはいやだ。だけども、そう言って森を遠巻きにしていてはダメだ。もっと木々となかよくなるために森の木を使って何かをつくりたい。椅子、テーブル、うつわ。日々の生活で使うもの、それがいい。また、山の尾根に山小屋もつくりたい。東北の山でみた雪にこわされない頑丈な山小屋、そんなものが欲しい。その山小屋に泊まって、モモンガも見たい。満天の星空もみたい。パチパチと燃える薪ストーブも用意して森のじしまの中で過ごす。これが大事だ。みんなで遊ぶ森だ。それがいい。

〈森をつくる〉

森をつくりたいという人は多い。本州では里山ブームだ。里山についての定義はいろいろあるが、里山とは人々が親しみ易い森のことなのだ。そもそも里山は鳥が好き、お花が好きということから守られてきたものではない。人々の暮らしに無くてはならないものとして利用され続けてきた森だ。人が山に行っていろいろなものを採ってくる。おじいさんは山に柴刈にというわけだ。だから道もたくさんついていて歩き易い。見通しもいい。わたしたちも使い続ける森、森からの恵みを利用する森を持とう。薪ストーブの燃料にするために柴を刈る。大きくなったり木で炭を焼く。キノコも植える。これできのこ汁もできるし、鍋の燃料も確保できた。

さらに、木を植えることは楽しみだ。植えた木は少しずつだが着実に育つ。人は忙しく人生を送る。何をしているのか分からぬうちに人生は過ぎる。しかし、木は着実に大きくなってわたしたちの前に立つ。人はそれをみて、越し方幾星霜を考える。そんなオセンチなことも生きている人間には必要だ。鉱山の時代に使い今はそのままにされて、ササ原になっているところに木々を呼び戻そう。自然に種まきしてもらう方法もある。人が手助けをする方法もある。いろいろなやり方で森を呼んでこよう。

でも、こうしたことは、まず森で遊んでから考えよう。



オススメBOOKS from STAFF



「春にして君を想う」
Children of Nature

1991年アイスランド
監督:フリドリク=フリドリクソン

BOOKSというか、今回は映画のご紹介です。

ひとりぼっちで暮らしていた老人が、たった一人の家族である飼い犬を撃ち殺して家を出る。そんなシーンから始まるのが「春にして君を想う」というこの映画。一人の生活ができなくなってしまった都会へ出たおじいさんと、そこで偶然出会った幼馴染のおばあさんと、今は廃村となってしまった故郷への思いを馳せて逃避行を決行します。美しいアイスランドの風景をバックに、失われてゆくものや「目に見えない本当に大切なものの」があることを私たちに教えてくれる、切ないファンタジーです。

とても悲しいお話ですが、かつて栄えた鉱山町が、彼らの故郷の廃村とダブって感じられて、僕にとっては思うところが大きい映画です。残念ながら多くのレンタルビデオ屋さんではこの映画を置いていません。もし見かけたらぜひご覧ください。

(H)

9

EVENT INFORMATION

子ども自然教室④

マツマルトウツキウラボ

今度は動物観察!!

日時:1月25(土)・26日(日)

14時~17時30分

対象:登別市内の小学4年生~6年生

(それぞれ10名)

費用:無料

内容:動物を観察し、動物の住みやすい森を作
る活動をします。(両日ともに同じ活動です)

冬休み特別プログラム

おしゃれな

ネイチャークラフト教室

今年の冬休みは「ふおれすと鉱山」の
おしゃれクラフト教室できまりだね!!

日時:1月10日(金)~12日(日)

午後1時30分~4時くらい(途中参加もOK!)

対象:市内の小学校4年生から大人まで(20名)

参加費:無料(材料費などはご負担頂くことがあります)

※なお、このプログラムではバスの手配はございません。
あらかじめご了承ください。

内容:

10日…**フォトスタンド**(のこぎりを使おう)

木槌(小刀とドリルを使おう)

11日…**ドリームキャッチャー**(細かい細工に挑戦!)

12日…**ドールチェア**(難しい細工に挑戦!)

フィールドワーク in 鉱山町④

冬の鉱山

今回は雪の鉱山を、歩くスキーの練習を
しながらゆっくりめぐります。雪を見な
がらちょっとお茶にしましょう。

日時:1月13日 10時~13時

対象:登別市に在住の方をはじめとする
鉱山町の自然に興味のある方。
(定員15名)

費用:無料

※大人向けのプログラムです。

新企画

教職員のための自然体験活動

指導者養成講座

ふおれすと鉱山を使ってもつとよく授業を展
開できないか?そんな先生のために、私
たちが作る自然体験活動のノウハウを全て
お見せします。

日時:1月7日(火)~8日(水) 1泊2日

対象:登別市内小中学校教職員(20名)

費用:無料

イベントのお問い合わせ・お申し込みは

「ふおれすと鉱山」

TEL 0143-85-2569

Fax 0143-81-5808 まで

ふおれすと鉱山利用のご案内

開館:9:00~17:30 入館料:無料

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日が休館となります)

工作室・図書室は自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、
歩くスキー、調理台などをご利用いただけます。



EDITOR'S LOUNGE

「秋からあの美しい冬に、変われば癒される
ね」そんな歌がある。雪の季節が好きだ。山
を自由に歩けると、なんだか心まで自由に
なる。動物たちの足跡を見ると嬉しくなる。
そいつの息遣いが感じられる。そんな時、僕
もそいつも同じ空気を吸って生きていると
いうことが分かる。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 vol.3

発行:2002年12月

発行所:〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号:0143-85-2569 FAX:0143-81-5808

E-Mail:kouzan@pluto.plala.or.jp

URL:www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm